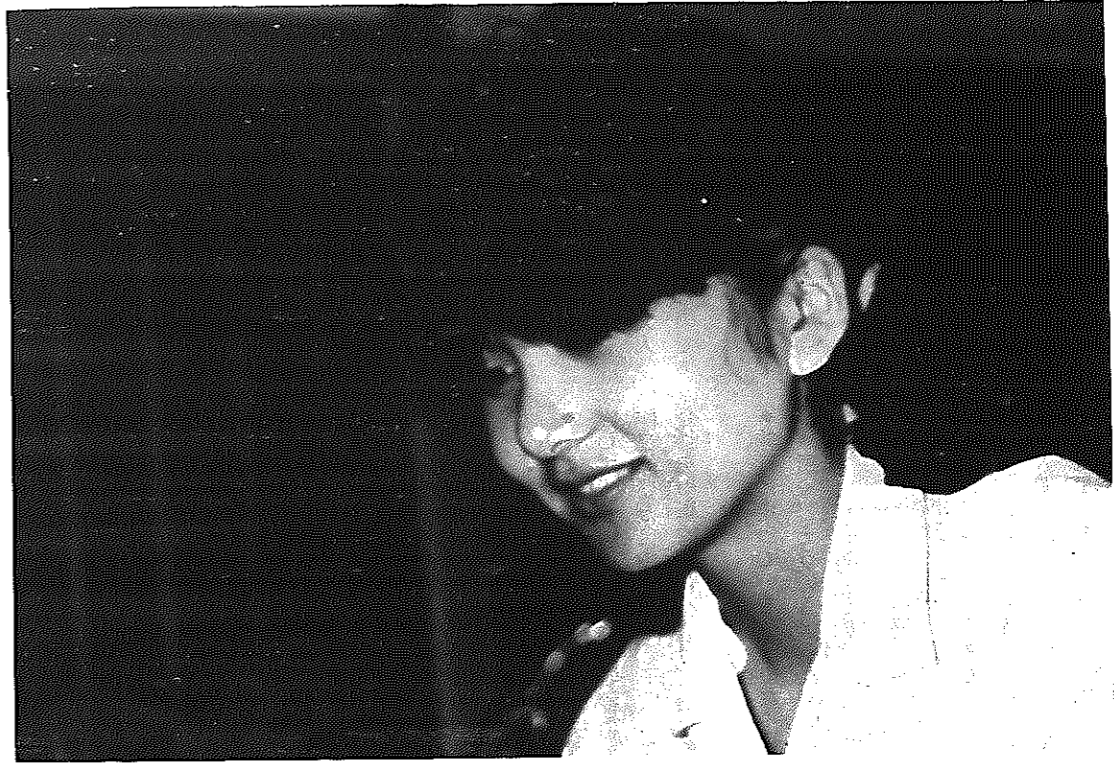




沈
に
は

高校放送コンテストで全国大会へ

堀水マリ子さん (上赤浜・高校生・18歳)



六月二十三日、新潟市のNHK放送会館で行われた「県高校放送コンテスト」のアナウンス部門で、予選を通過した二十七校四十人中から、堀水さん(新潟高校三年)が兄弟一位に選ばれました。審査では、前日のテレビニュースの原稿が手渡されましたが、「そのニュースを見てなかったの、あせってしまいました。それに自信もなかったし、自分でも驚いています。去年の夏に、他校の人たちといっしょに講習を受けたとき、ほかの人がうまいので感心してたくらいですから」。

堀水さんは、高校へ入学してすぐ放送委員会に入会しました。「新入生歓迎会で各クラブが紹介されたんですが、放送委員会は自分で吹き込んだテープを流したんです。それがすごく気に入って、それまでは、特に放送の経験はなかったそうです。以来、委員の一人として、校内放送や各種行事の進行のほか、お昼の音楽番組の製作などを行ってきましたが、今回のコンテストを最後に委員会を去ります。先輩の厳しい指導で、いっしょに入った女子十三人が、最後には二人に。「先輩のおかげで、ここまで来れましたが、私は後輩に教えきれませんでした」と心残りの様子。母親のハルさんは「小さいころから負けず嫌いで、人前でも物おじしない子でした」と話しています。将来はアナウンサーに?との質問に、堀水さんは「なれたらいいんですけど難しいですからね。あまりこだわらずに、今はとにかく進学したい」と答えてくれました。なお、堀水さんは、八月三日から東京で行われるNHK杯全国高校放送コンテストに出場します。



好きな教科は数学と体育。明るい声ではきはきと話す堀水さん

わずかに残る学び舎の跡いつまでも

語る人

鶴巻 稔さん(四九)

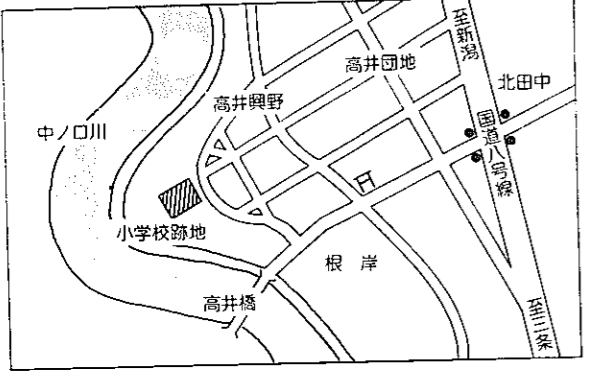
高井興野



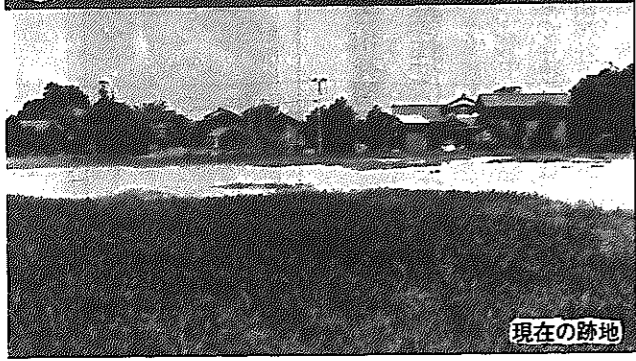
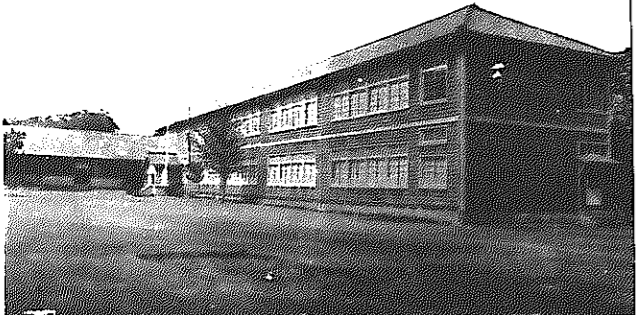
「越の広野のまただなか いやひこ山のかげうつす」これは、高井小学校の校歌の一節です。私の家は、この学校の隣で、産声を上げたときから学校の始・終業のベルを子守歌として育ち、校庭を自分の庭のように遊び回っていたものです。昭和十六年の世は正に戦争に突

私の思い出 昔のわが街

入する直前。私はこの学校へ入学し、二十四年晩秋、中学校新校舎開余り、この学校で学びました。校庭にはどんぐりの巨木が数本あり、よじ登ってかぶと虫やどんぐりの実を取って遊んだものです。この学校も統合で校舎が取り壊されました。荒地地となった校庭を今もときどき散歩しながら、寂しさを感じています。せめて、今後も子供たちの遊び場、スポーツ、地域住民のコミュニケーションなどの場として、いつまでも利用できることを願っています。



高井小学校



現在の跡地

白根 人物伝

★大武 葆光

儒者。白根の人で、後に新津に移った。名は忠吾、字は元朗、号は東閣または葆光(近世越佐人物伝には葆光斎)という。五歳のとき、すでに書をよくしたという。新発田藩が家臣の子弟を京都に遊学させたとき、その一人に加えられ、芥川丹邸に学び、詩文をよくした。三年の後、学成って江戸に遊び、東山大士の客卿となり、帰郷して家をあげて江戸に出、浅草で塾を開いた。父母、妻を失い大水に遭ったので帰郷し、水原の知り合いを頼って村の塾師となった。

滄溟尺牘二巻、学海通鑑五巻、分類語録二巻などの著書がある。享和元年(一八〇一年)三月に六十四歳で亡くなった。(北越詩話、近世越佐人物伝から)

★相田 ヨシ

善行者。菱鴻の相田蔵吉の妻である。八十歳歳の父によく仕え、明治七年五月七日、県から一円二十五銭を賞与された。(中蒲原郡誌から)



「私の思い出 昔のわが街」欄へあなたの思い出の場所を。連絡は企画財政課広報広聴係へ。